

# 生涯教育月報

2016

夏

季刊 No.111



創立40周年記念公演オペラ「ヤマタノオロチ」..... 5

創立40周年記念特別企画「豊後・肥後・筑後の城めぐり」..... 8

プロフィール・インタビュー ..... 12

公益財団法人 助成財団センター 専務理事

田中 皓さん

いつでも どこでも だれでも学べる



公益財団法人北野生涯教育振興会  
KITANO FOUNDATION OF LIFELONG INTEGRATED EDUCATION

# 2016年奨学金授与式開催

◆音楽奨学生 ◆彫刻奨学生

## 音楽奨学生 奨学金授与式

2016年4月7日、愛知県立芸術大学において、第8回音楽奨学生奨学金授与式が、入学式終了後の音楽学部新入生オリエンテーション会場で行われました。

この奨学金制度は当財団

が芸術振興の一助として、同大学の学生を対象として2009年より実施しています。選出された学生に、財団の増渕有三評議員から奨学金が授与されました。奨学生は、奨学金を留学の費用にあてたなど、受賞の喜びを熱く語っていました。今まで奨学生になった方は、今回の奨学生を加えて25名になりました。



福本泰之 愛知県立芸術大学音楽学部長よりインタビューされる奨学生の皆さん



増渕有三評議員より奨学金授与



山田貴子さん (ヴァイオリン)



大崎奈々さん (ピアノ)



川瀬千音さん (声楽)

## 彫刻奨学生 奨学金授与

2016年6月21日、財団ホールにおいて、第32回彫刻奨学生奨学金授与式が行われました。

この奨学金制度は1985年から実施されており、今年の5名を加え、114名が奨学生に選ばれています。今回の奨学生と作品は下記の通りです。



前列左から、鞍掛日本大学教授、大槻日本大学教授、市橋常務理事、戸谷武蔵野美術大学教授、村井多摩美術大学教授  
後列左から、保坂さん、川端さん、栗原さん、河原崎さん、青野さん



「アダン」  
保坂 航子さん  
(武蔵野美術大学大学院)



「どなた」  
川端 豊子さん  
(多摩美術大学大学院)



「受け継いでいく命」  
栗原 利記さん  
(日本大学大学院)



「友人像」  
河原崎 未貴さん  
(日本大学)



「私」  
青野 真澄さん  
(日本大学)



# 創立40周年記念公演オペラ 「ヤマタノオロチ」

2016年3月6日、めぐろパーシモンホール大ホールにて当財団の創立40周年記念事業の一環として、オペラ「ヤマタノオロチ」を公演した。

日本の神話とオペラを融合したこの作品は当財団が創立30周年を迎えたときに創作・公演しており、目黒区教育委員会・公益財団法人目黒区芸術文化振興財団との共催で、10年ぶりに同じ会場での再演が実現した。

設立以来、いつでも、どこでも、だれでも学べる機会を提供してきた当財団は、今回この再演を通じて生涯学習の大きな要素である「継続は力なり」を体現した。

第1部の幕開けを飾ったのは女流講師・宝井琴柑さん。40周年の節目を迎えた当財団の挨拶から始まり、今回の公演は出演者だけでなく、観客の皆さんからの声援があつてこそ完成するという内容に会場の一体感が高まる。この日のために書き下ろされた講談「国生み神生み」はオペラ「ヤマタノオロチ」になぞらえて、日本神話が題材となっている。リズムの良い講談に続く



て登場したのは、目黒区立中目黒小学校合唱団の皆さん。「NHK学校音楽コンクール」をはじめとした数々の大会やコンサートに出演している同合唱団は、ヤマタノオロチを作曲した加藤昌則さんの「地球をつつむ歌声」を含む6曲を披露。伸びやかな歌声が会場を包んだ。

第2部ではスサノオノミコトを演じる宮本益光さんが演出も担当、ヤマタノオロチを東京シティ・バレエ団メンバーが象徴的に表現。洗練された迫力ある演技で観客を「ヤマタノオロチ」の世界と一気に引き込んだ。また初演同様、合唱団を務めたのはめぐろ区報の一般公募で選ばれたメンバー。6月の結団式から30回以上の練習を重ね、舞台に華を添えた。また、今回の公演のために結成されたオーケストラは、その高い技術で重厚な音を生み出し、物語の世界観を見事に表現した。

10年という長い年月を経て待望の再演が実現した「ヤマタノオロチ」。初演よりもスケールアップしたその内容は、1,000人の観衆を圧倒し最後の瞬まで魅了した。

## 第一部に関わった皆さん

講 談 師 宝井 琴柑  
指 揮 / 指 導 田中 裕美  
ピ ア ノ 飯田 ゆりえ  
中目黒小学校合唱団



悪の象徴であるヤマタノオロチが  
スサノオノミコトの前に姿を現す



クシナダヒメ (右) がヤマタノオロチの生け贄に  
なってしまうのを悲しむアスナズチ (中央) とテ  
ナズチ (左)



スサノオノミコトの姉・  
アマテラスオオミカミが登場



# オペラ「ヤマタノオロチ」全幕

## 第一幕

自分の思うがままに行動してしまふ荒々しい性格のスサノオノミコト。そんな彼が美しいクシナダヒメと出会い、結婚を決意するところから物語は始まる。

結婚の報告をするため、改心したスサノオノミコトが向かうは姉・アマテラスオオミカミがいる高天原。しかしアマテラスオオミカミや高天原の神々は、元々暴れん坊と称されるスサノオノミコトの「改心した」という言葉を信用しない。スサノオノミコトは自分を理解してもらえない腹立たしさから暴れ出す。それを誰もが持つ悪の部分象徴するヤマタノオロチがあおることと、どんどん悪い方向へ。アマテラスオオミカミは天の岩戸に姿を隠し、スサノオノミコトは高天原から追放となる。

## 第二幕

スサノオノミコトは高天原から追放されたショックで時をさかのぼり、クシナダヒメに出会う前に戻ってしまう。真つ暗闇の中を一人寂しくさまようスサノオノミコトは「自分は

## 人間の二面性を描く内容に自分を重ねてほしい

加藤 昌則さん (作曲・指揮)

学生時代はオペラにはあまり興味がなかったのですが、試しに一度観てみたら感動し、それ以来オペラに携わるようになりました。ご縁があって初演の作曲を務めさせていただきましたが、私自身初めて手掛けたオペラ作品なので強い思い入れがあります。10年の歳月を経て今回再演となりましたが、観ている人々に勇気を与えられるとうれしいです。また、この作品では合唱がストーリー・テラーとしての役割を果たしているのが特長の一つなので、こちらも注目してほしいですね。



スサノオノミコトが宿敵・ヤマタノオロチを倒すために奮闘

## 「個」として認められた上で成り立つ物語

宮本 益光さん (演出・スサノオノミコト)

神話を元にしたこの作品は、「個」が与えられた「名」とともに成長しながら他者との関係を見出し、より強い「個」になっていく姿を描いています。スサノオノミコトの善悪やヤマタノオロチの悪へと誘う囁きも「個」としての認識の上に成り立っているのです。劇中すべての登場人物がスサノオノミコトの「名」を呼び、またはその「名」を尋ねます。まさにこの質問と呼びかけのあり方がこの物語の核。しかしながら言葉は的確、音は雄弁。何を語らずとも、ヤマタノオロチは存在しつづけるのです。



敵に打ち勝って、無事結婚を迎えるスサノオノミコトとクシナダヒメ



### 第二幕に関わった皆さん

スサノオノミコト	宮本 益光 (バリトン)
ヤマタノオロチ	伊藤 純 (バス)
アマテラスオオミカミ	青木 エマ (ソプラノ)
クシナダヒメ	三宅 理恵 (ソプラノ)
アシナヅチ	牧川 修一 (テノール)
テナヅチ	穴澤 ゆう子 (メゾソプラノ)
指揮	加藤 昌則
管 弦	楽 オペラ「ヤマタノオロチ」特別編成オーケストラ
合 唱	公募によるオペラ「ヤマタノオロチ」特別編成合唱団 日本声楽家協会合唱団
合 唱 指 揮	竹内 雅拳
合 唱 指 導	太田 小百合 / 米谷 朋子
ダン ス	東京シティ・バレエ団 渡邊 優 / 河野 麻子 (アメノウズメ) / 大内 麻莉 / 中村 緋女 / 八隅 莉子 / 小林 あおい / 兼元 佑季
振 舞 台 監 督	加藤 浩子
証 明	近藤 元
衣 装	成瀬 一裕
衣 装 協 力	矢野 祐子
メ イ ク	東京衣装株式会社 上野 みちよ
コ レ テ ィ ト ル	小田切 舞美 / 高田 恵子 / 矢野 里奈
演 出 助 手	小田切 舞美 / 高田 恵子 / 矢野 里奈 中嶋 薫子 / 成平 有子



カーテンコールに応える出演者

過ちを犯したのではないかと考え続ける。しかしここでも自分の悪の部分であるヤマタノオロチが「お前は間違っていない」と諭す。

その後クシナダヒメに出会い、「目惚れしたスサノオノミコトは、彼女がヤマタノオロチの生け贄になつてしまうということを知る。それをどうにか助けようとヤマタノオロチを退治することを決心するが、自分の諸悪の根源である暴力を使って問題を解決することをためらうスサノオノミコト。すると、クシナダヒメは「あなたの持つ力を自分のためではなく、純粹に愛する人のために使うのであれば、それは暴力でも悪でもない」と説得する。その言葉に勇気づけられたスサノオノミコトは自身の中の悪・ヤマタノオロチを退治することを決心する。

ここで時は再び高天原の場面に。ヤマタノオロチはまたしても悪の道へ誘おうとスサノオノミコトをそそのかすが、スサノオノミコトはそれに惑わされることなく退治。ついに自分の中の悪に打ち勝つたのだ。そしてヤマタノオロチの首から出てきた剣がスサノオノミコトの改心の証となり、二人は結ばれる。

## 歴史研修（その7）

2016年4月4日(月)～6日(水)



熊本城の宇土櫓前で



### 創立40周年記念特別企画

# 豊後・肥後・筑後の城めぐり

今回の歴史研修の舞台は名城が多く、石垣の残存率が高い九州です。羽田空港に集合し、大分へ。初日は杵築城と府内城を訪れ、湯布院温泉に宿泊。二日目は岡城を見学後、熊本城へ。夜は菊地温泉をゆっくり堪能し、最終日は柳川城と福岡城を満喫。充実した研修となりました。帰京8日後に起きた熊本地震は、熊本城の石垣や櫓に大きな被害をもたらしました。あの雄姿を再び目にするのができるのは、数十年後とか。一日も早い復興を願わずにはいられません。

解説 静岡大学名誉教授  
小和田 哲男さん

1394年、木付頼直によって八坂川河口の台山に木付城が築かれました。「杵築」という表記になったのは、正徳2(1712)年、將軍家宣の朱印状に「杵築」と記載されていたからだと言われています。高山川と八坂川が交わる台地上に築かれた杵築城は三面を海と川に囲まれており、敵の侵入を未



### 杵築城

然に防いできました。現在は高台から守江湾を一望することができます。また、杵築城周辺は城下町の風景が色濃く残っているのも大きな魅力。武家屋敷がある北台、南台の台地の間の谷町に町屋が立ち並び、台地と低地を結ぶ石畳階段の坂道が、杵築独特の立体的景観を作っています。

### 府内城

戦国時代、九州の三強と呼ばれていた薩摩の島津および肥前の龍造寺、豊後の大友。その中の大友宗麟はキリシタン大名として名を馳せており、現在も大分市に



本丸跡地に残る人質櫓。その名の通り、人質を収容した

1996年に復元された廊下橋は、かつて西の丸と山里丸(現在の松栄神社)を結んでいた



は大友家の彫刻物や石像などが数多く残っています。一行が向かったのは、元々豊後の国府があったことから現在の呼称となった府内城。豊臣秀吉によって大友家が滅ぼされた後の慶長2(1597)年、石田三成の妹婿である福原直高によって築かれました。商船の積荷を下ろす船養場として栄えていたことに由来して、「荷落城」とされていますが、縁起が悪いとして「荷揚城」と命名されました。

その後1601年に竹中重利が藩主となり、四重の天守を設けました。古くから不吉な「四」は避けられてきたため、全国的にも希少な天守といえます。

### 岡城

岡城は戦国時代に勢力を伸ばしていた大友宗麟の重臣である志賀親次が居城としていました。大友と敵対関係にあった島津からの度重なる攻撃を防いできたことから、志賀は武将として高く評価されていました。しかし、文禄2(1593)年に宗麟の嫡男である義統が改易されたことをきっかけに志賀は岡城を去ります。そして翌年、移封してきた中川秀成が大規模な増改築を行い

ました。

岡城周辺は地震が多いところであつたため、江戸時代にも修築が繰り返されており、現存する石垣には落とし積み技法が使われているものもあります。

二の丸跡には、岡城をモデルに「荒城の月」を作曲した滝廉太郎の銅像



落とし積みの石垣

## 熊本城

大岡検地に反発する国人一揆の鎮圧に失敗した佐々成政に代わって、肥後を治めることになったのが加藤清正と小西行長です。北肥後を与えられた清正は、豊臣秀吉より築城の命を受けていましたが、その前に菊池川や緑川、白川といった河川の整備に目を付けました。いずれも上流から下流にかけて一貫した城主がおらず、



「扇の勾配」という技法を使った石垣は曲線が美しいだけでなく、安定感にも優れている



小天守には下に「忍び返し」と呼ばれる槍のような鉄串がついており、敵の侵入を未然に防いでいた

荒廃が進んでいたため、堤防に手を加えることにしたのです。現在も残る「清正堤」と呼ばれる遺構からは、清正の治水能力の高さがしのべれます。

熊本城の築城にあたっては、お抱えの土木技師である森本儀太夫と飯田寛兵衛の力を借り、独特の美しい勾配を持つ石垣を完成させます。後の、熊本を主戦場とした西南戦争では、西郷隆盛による猛攻を受けたものの落城せず、難攻不落の名城として名を馳せました。



頼当御門で解説する小和田先生

## 柳川城

この石垣のほかに熊本城を特徴づけるのが井戸の存在です。朝鮮半島に出兵した慶長の役における蔚山城の籠城戦で、深刻な水不足に悩まされた経験から、清正は城内に120カ所以上の井戸を掘らせたといわれています。

中世末期、柳川地区を治めていたのが立花道雪の養嗣子である立花宗茂です。

慶長5(1600)年、宗茂は大津城攻めで頭角を現したものの、関ヶ原の戦いでは大敗を喫し改易に。その後江戸で浪々の生活が続きましたが、二代目将軍秀忠との出会いをきっかけに陸奥国の大名となりました。その力量が認められた宗茂は、最終的にかつて

の家臣とともに柳川城へ戻ったと言われています。その後、柳川城に入城したのは愛知県・岡崎の大名だった田中吉政です。土木に関する豊富な知識を生かし、低湿地という柳川地区の特徴を踏まえた築城・城下の整備を行いました。これにより平城であっても敵が近づきにくい柳川城が完成します。



「水の都」柳川の縦横に張りめぐらされた掘割の川下り

## 福岡城

関ヶ原の戦いを終え、豊前の大名・黒田長政が名島城に移封しました。しかし、大きな城下町を築けるほどの土地がなかったことから、長政は福岡(現舞鶴公園)に新たな平城を設けました。

博多湾と入江をうまく使った福岡城は広い本丸が特徴の一つ

で、関西以西では最大級の規模を誇っていました。

## 天守の謎

これまででは福岡城に天守は存在しないという定説が有力でした。しかし、天守が記された絵図面が残っていたり、加藤家に次いで熊本城を治めていた細川家の文書から長政が天守を壊しているといった情報が見つかったりしたことから、近年はその定義に疑問が投げかけられています。



鬼門封じの祈念をするために建立された祈念櫓

南丸に位置する多聞櫓。長屋型で16の小部屋に分かれている



# 夫婦で考える 「定年後のライフプランセミナー」を開催

2016.5.28(土)

昨年の第5回までは、1泊2日湯河原でのセミナーを開催していましたが、今回は趣向も新たに多くの夫婦の方に参加して頂きたいと目黒雅叙園サロン・ド・ソレイユⅢに於いて1日のライフプランセミナーを開催いたしました。

専門講師の指導により、リタイア後の健康やお金、時間の使い方、生きがい等について、現役の内に早めに考えて頂くことを目的として、老後は夫婦で仲良く豊かに暮らしたいという夢の実現に向けて「定年後のライフプランセミナー」を開催いたしました。

それぞれの生活を  
見直し最適な  
ライフプランを作成

夫婦単位を原則として、夫婦いずれかが50歳から64歳までの方々4組8名が参加いたしました。初めは緊張していた皆さんも講師の方々の和やかな雰囲気の中での講義に、次第にリラックスされていきました。内容は、定年後のお金の計算を基に専門の講師の指導を受けて夫婦でライフプランの作成に取り組み、定年後の生活設計を具体的にイメージしてもらうものです。講師は、(株)活性化セミナー研究所会長の奥畑研司さんら3人です。



基調講演をされる  
奥畑講師



社会保険制度について  
解説される大橋講師



参加者全員による  
「知恵の交換会」



健康管理について解説される  
津坂講師

はじめに同社ライフプランコンサルタントの奥畑講師による基調講演「生きがいとライフプラン」と題して、生きがいにかかわる退職前と退職後の環境変化についての講演でした。次に大橋講師が社会保険制度(年金や保険)について解説されました。昼食は、目黒雅叙園の西欧料理クラブラウンジでランチbuffetを各自楽しんだ後に6歳〜80歳までの20年間の長期家計プランの作成の説明がありました。従来は、講義内容からご夫婦でライフプランを作成して頂くところまでですが、今回は時間の都合上作成は各自帰宅後に夫婦で話し合い作成して頂く事になりました。その後は、ライフプラン「知恵の交換会」と

題して、参加者全員による生活の切り口について、自由に討議を行いお互いの情報共有を行いました。セミナーの最後は、健康運動指導士の津坂講師が、食事や運動などの健康管理の情報を紹介。参加者は教室内で軽く音楽に合わせて体操を行い、運動の前後の心拍数の違いを確認しました。また腰痛予防に効果的な筋トレ、ストレッチの方法や脳の健康度チェックなども行いました。脳の健康度チェックの設問には、この設問にチェックがいたら医師に相談して画像検査の実施が望ましいなどという項目もあり、参加者は真剣な眼差しで設問に取り組んでいました。講義やグループ討議を経て、受講者には健康・お金・時間・生きがいなどについて真剣に考え、豊かな老後を送れるように事前準備の必要性を感じて頂きました。作成したプランも年に1回見直しメンテナンスすることで、より良いものになるとのアドバイスをいただきました。参加された受講者の方々は、事前準備も含めてライフプランセミナーを積極的に受講されているのが大変印象的でした。従来の1泊2日から1日の研修にした結果、主催者側の期待した参加者の増加はありませんでしたが、受講者から参加して良かったという感想を頂き、本事業を継続していききたいと感じました。

# 財団ニュース

## ご報告



### 2016年度 財団奨学生決定

今年度の財団奨学生が決定しました。たくさん応募の中から、科目等履修奨学生15名、放送大学選科履修奨学生15名、放送大学大学院修士全科履修奨学生10名が選ばれました。今後の成果に期待します。

#### 科目等履修奨学生

氏名(年齢)	履修大学
石倉 寛(66)	武蔵大学
内田 光裕(35)	筑波大学大学院
江藤 郷子(39)	甲南大学
近藤 聖子(49)	関西大学大学院
佐藤 陽子(67)	学習院大学大学院
鷹野 和紀子(41)	神奈川大学
戸倉 博之(47)	國學院大學
中野 啓子(61)	龍谷大学
馬場 さおり(37)	九州産業大学
土生 美枝(48)	関西学院大学大学院
藤森 恵(26)	明治大学
藤原 弓子(33)	山形大学

#### 放送大学選科履修奨学生

宮崎 理絵(44)	首都大学東京
安木 美帆(30)	立命館大学
吉村 チヨノ(59)	久留米大学

#### 氏名(年齢)

市川 敏弘(69)	鈴木 友喜(39)
糸原 久恵(64)	高橋 保雅(38)
宇野 映子(50)	田中 真一郎(45)
小野 眞知子(62)	手嶋 優子(37)
河崎 優美子(42)	富山 美奈子(45)
清原 亜紀(48)	星野 健司(34)
坂田 葵(34)	湯田 明子(53)
鈴木 友喜(39)	横川 行俊(73)

#### 放送大学大学院修士全科奨学生

#### 氏名(年齢)

岩本 真理子(48)
沖野 大輔(51)
奥山 武(72)

鹿島 裕子(43)
金森 詞子(58)
金子 友紀(38)
小西 陽子(42)
武部 京子(55)
前嶋 敦子(45)
馬込 奈穂子(39)

## お知らせ



### 伝統文化「文楽」に親しむ

「伊達娘恋緋鹿子」火の見櫓の段」を実施します。受講すれば、「文楽」の魅力にはまってしまうこと請け合いです。奮ってのご参加お待ちしております。

**日程** 9月23日(金)

18時～19時30分

**会場** めぐるパシモンホール

小ホール

**定員** 190名



## こ・ち・ら・編 集 室

最大震度7を記録する熊本地震が発生してから、2か月が過ぎたにもかかわらず未だに余震が続いています。本年4月、当財団の城めぐりの研修で、熊本城の雄姿が目焼き付いている参加者のみなさんには、特に遺憾の気持ちが大いではないでしょうか。しかしながら、熊本城のライトアップ再開や天守の復興が動き出したりと、熊本県民の元氣アピールに拍手を送るとともに、平時でも常に腰兵糧を身に付けていた加藤清正の精神を見習って、身の回りの地震対策を見直さなければならぬと覚悟を新たにしました。

ちなみに、北野財団を支援するスタンレー電気株式会社は、1,000万円の熊本地震義捐金を拠出していきます。

## 表紙ギャラリー

当財団の使命は、一生学び続ける人を応援することです。学ぶ人が、今日よりも明日、一歩でもよくなるよう努力するには、目標が必要だと思います。そこで、世のため、人のために偉業を成し遂げた偉人を目標に掲げたいと考え、財団機関誌の表紙に登場いただくことにしました。

### 夏目漱石 (1867~1916)

今年は、夏目漱石没後100年にあたります。漱石は、東京帝国大学を卒業して、松山中学、熊本第五高等学校で教鞭をとった後、イギリス留学を経て、小泉八雲の後任として母校で英文学を講じました。そして、40歳の時、教職を辞して朝日新聞に入社し、執筆に専念。逝去するまでのおよそ10年間に書かれた、「虞美人草」から始まって「明暗」に至るまでの作品は、未だに多くの読者に支えられています。漱石の名前は、中国の故事「漱石沈流」(こじつけて言い逃れること)から取ったもので、漱石の文学に大きな影響を与えた正岡子規のペンネームを譲り受けたものだそうです。



### 設立目的

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省(現文部科学省)の認可を得て発足しました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる体制をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持てるよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

### 生涯教育だより 第111号

2016年7月10日発行  
 編集人 市橋 淳平  
 発行人 北野 重子  
 発行所 公益財団法人  
 北野生涯教育振興会  
 〒153-0053  
 東京都目黒区五本木1丁目12番16号  
 電話 東京 03(3711)1111



公益財団法人 助成財団センター 専務理事

## 田中 皓さん

TANAKA HIROSHI



高松市にて開催のセミナー

# 相手を見て、 感じて、考える。 人を育てることは、 自分を育てること。



奨学金や研究助成・活動助成などの助成事業を行う団体の情報を収集し提供、運営相談、セミナーなどを行う助成財団センターの専務理事を務める田中さん。当財団もさまざまなご指導を受けています。助成財団センターの取り組みや生涯教育についてのご意見をお聞きしました。

— 助成財団センターの活動内容について教えてください。

助成財団センターは、助成財団に関する日本で唯一の情報センター・支援センター・広報センターです。助成財団の定義は、①NPOや大学などへの金銭的な支援②奨学金の授与③賞に伴う報奨金の授与を行っている財団法人・NPO・企業・任意団体などの助成型団体の総称です。助成財団の事業規模や資産、事業形態、事業分野などさまざまな調査を毎年実施、統計データを蓄積し、WEBサイトや出版物でその現状を広く社会に発信しています。また、助成金を必要としている方々からの相談のほか助成財団の設立と運営に関する相談、研究会やセミナーも開催しています。

助成財団の活動はあまり世間に知られていませんが、民間助成財団の助成金総額は毎年約1,000億円(当センターが把握している2015年調査データより)となっており、これらの助成金は民間ならではの研究活動や事業活動、

奨学金や報奨金として活用され、素晴らしい成果を挙げて社会に大きく貢献してきています。このような事実をいかに多くの社会の人々に知っていただくが課題です。

— 北野財団の印象はいかがでしょう。

感心するほど多種多様な事業を展開されていますね(笑)。多くの財団法人を見てきましたが、ここまで多岐にわたる事業をこなしている財団はほとんどみることがありません。確かに生涯教育がカバーする文化・芸術の幅広い領域にわたり、さらにシニアのライフプランセミナーなど、時代の要請に合わせたテーマにタイミンが良く取り組まれるのも素晴らしいことです。また、ホールやライブラリーなどの施設を所有し、財団の本拠地である目黒区に限らず広く解放され、スタンレーの拠点がある世界中の地域も巻き込んだ活動、会員制の導入などが珍しい特徴的な取組になっていると思います。ただし、見方によっては、テーマや活

動が多岐にわたっていることは、本来何がやりたいのがぼけてしまうことにもなりかねません。もう少しテーマを絞り込んで、財団の特徴を明確にしておくことを考えてみることもこれからの課題の一つかもしれません。

— 財団の助成活動について何か助言はございますか。

旧来、多くの助成財団は、一方的に助成するだけのスタイルでしたが、これからは限られた資金を有効活用し、社会に貢献していくためにも、アクティブに助成先とコミュニケーションをとり、一緒になって成果を上げていこうという意思表示をすることが必要です。そのために、金銭的な助成だけでなく、助成金に付加価値を付けるために助成財団が持つリソースをプラスαとして提供することも求められています。研究支援先のネットワーク化などはその一つです。研究者や団体を結びつけることで、新たな価値を創造することが、助成財団の存在価値を高めることになっていくでしょう。

— 田中さんご自身の生涯教育は何ですか。

仕事を通じて、後進の育成に注力してきましたが、人を育てることは自分自身を育てることだと身に染みて実感しています。その心構えとしていつも手帳に挟んで持ち歩いているのは、以下の言葉です。「世の中に人を育てる心こそ己を育てる心なり」荒木田守武

「見えますか相手の心 感じますか相手の想い 考えますか相手の立場」  
「驕らず 怯まず 遅しく」

これらを実践することが、自分自身の生涯教育だと考えています。

— 趣味は何ですか。

昔から運動が好きで、野球、卓球、バレーボールなどを楽しんできましたが、最近はおつばらゴルフです。学生時代はマンドリンクラブに所属し、ギターを弾いていました。仲間と一つの曲を仕上げに行く過程は非常に充実感があり、青春の良い思い出になっています。最近、友人たちがいったんは中断していた楽器演奏を再開している様子を見て、いつかは私も思っています。シニアになって、若い頃に一生懸命取り組んでいたことをまた始めるのも、生涯教育と言えるのではないのでしょうか。

— 最後に、読者にメッセージをお願いします。

近年日本では、国家を支えていた国や企業の力が伸び悩み、今後の発展には市民の力が欠かせないと言われています。そのためには、寄付の文化を醸成していく必要があります。民間助成財団がそのパイプ役の一つを担っていくことは間違いないと思います。日本社会の更なる発展のためにひとりひとりの市民の力・民間の力が発揮できるような社会を目指していきたいものです。

助成財団のあり方について一から分りやすくレクチャーしていただき、大変勉強になりました。財団法人も、一市民も能動的に社会を支えなければならぬ時代にきていることを実感しました。今後もご指導のほどよろしくお願いたします。